

これまでの取り組み

- ・ 秋田県内におけるイヌワシを主とした猛禽類の生息状況の把握を目的として2019年に発足。現在会員8人。
- ・ 2019年から2022年にかけて、奥羽山脈を中心に調査を継続中。
- ・ 長年繁殖状況が不明だったAペアの連続繁殖及び、隣接するBペアを新たに発見。
- ・ その他地域でも合同調査を実施（イヌワシの生息を確認！）。



調査対象ペアの♂（撮影：長船裕紀）



イヌワシの生息環境（奥羽山脈）

秋田県におけるイヌワシ保全の現状と課題

現状

- ✓ 2022年時点で、12ペアの生息が推定
- ✓ 全県的に調査不足の地域が多い

（秋田県生活環境部 2016, 秋田県版レッドデータブック2016）

課題

- ① 全県における生息状況の評価
 - ☞ 生息実態把握に向けた調査が必要！
- ② 安定した財源の確保
 - ☞ 会員は調査に係る経費を自腹で賄っている現状であり、特に学生会員や県外在住者にとっては交通費等が負担に
- ③ 新規調査員の育成・地域における普及啓発の促進
 - ☞ 長期的な保全活動を行っていくうえで不可欠

今後の活動計画

①定期調査（毎月1回）

☞ 1年間特定の地域を集中的に調査。

②合同調査（春秋各1回ずつ）

☞ 定期調査とは別地域で実施。
学生や地元の自然保護団体等にも参加呼びかけ。

③個人調査

☞ 随時実施。調査結果はグループ内で共有。

①と②の調査地については検討中。

調査方法

①定点調査（右図）

無線交信により
個体を追跡。

②営巣地踏査 （非繁殖期）



調査風景（イメージ）



期待される成果・目標

①秋田県における基礎的な生態に関する知見の蓄積

☞ 繁殖生態及びペアの行動圏の解明等を目指す

②未知のペア（個体）の発見

☆環境省策定の目標ペア数は東北全体（岩手以外）で25ペア
（環境省 2021, イヌワシ生息地拡大・改善に向けた全体目標）

☞ 県内の調査不足地域においてイヌワシの在不在を明らかにし、
目標ペア数に対する現状を評価する

③合同調査等で若手・新規調査員の実践の場を提供する

④交通費の補助により調査参加者を増やす

助成金は調査に係る交通費、合同調査等企画に係る事務費及び
調査関係機材の購入費に使用いたします。